

憲法を起草する会《大阪》 第九回 議事録



■おやじより《武道場建築の報告》

今回、道場の増築を決心した理由は2つあり、1つは、多くの方が来てくださるようになり、手狭になってきたという現実的な理由。

そしてもう1つは、予てより日本の伝統職人の方々の伝統的な技をいろんな人に伝えることができる「伝統職人学校」のような場を作りたいという想いがあった。

伝統的な技術で弓を作る弓職人さんは、弓だけでは食っていけないので、子供に家業を継がせないという傾向にある。刀職人にしても、何にしても一緒に、真面目に一所懸命作っても食っていけないという問題がある。

そういう背景があり、何か出来ないかと常々思っていた。そこで伝統的な手法で家を作る大工さんをお願いして武道場に着手。

図面がなく、大工さんの頭の中だけに完成イメージがある。現在の建築基準法では提出する資料がないので、違法建築になってしまう。そういう伝統的な大工さんの技術というのが失われていくので、今回武道場の建築をお願いした。

まずは山を買うところからスタート。杉や檜を切って、仲間の方が手伝ってくれてなんとか進んでいる。

想像を絶する、すごく立派な建物が出来上がっているので、是非見に来て頂きたい。

■ 谷昂晃さん発表《災害時の避難民受け入れについて》

●谷昂晃さん

※詳しくは下記資料参照。

▼資料

■ 谷昂晃さん.pdf

憲法に謳うべき文言について

大阪市内のマンションに在住しています。
現在、我が家に、マンションの理事会の役が回ってきております。
ついては、防災関連の話し合いで提起された問題について述べたいと思います。

問題

南海トラフが発生した場合、大阪市の中心部は上町台地と呼ばれる高台であり、津波による河川の氾濫、建造物の倒壊から逃れるために多数の避難者が集中するとされている。

自宅の付近には、
あべのハルカスを中心とする商業施設があるT地区と
耐震性の低い木造建物が集中しているN地区がある。
N地区は、ホームレス問題で全国的に有名であり、度々、暴動も発生している

自宅からT地区にかけては、周辺地域の広域避難場所に指定されている。
つまり震災の際、T地区へ向かって N地区から多数の避難者が殺到することになるが、ここで問題が発生する

区役所の見解では、民間施設における避難民とのトラブルに関しては、
大阪市は関知しない。（当事者同士での解決となる。）
更に、民間施設は避難民受け入れを拒否する事も可能である。

従って中心部の商業施設やマンションは、避難民の受け入れには消極的になる

その為、公園などが避難場所となるが、周辺施設との環境差が激しい
また、設備の整った受け入れ先の確保には、時間がかかる。
このような状況から混乱や騒乱が発生して 町が機能不全に陥ってしまう

以上が問題であるが、これは都市全体の課題でもある。
数万人以上の、住環境も、背景も全く異なる人間が震災で混在した時、連携を取るのには極めて困難である
経済的効率性を追求した結果ではあるが、ただでさえ、災害の多いこの国で、
阪神淡路大震災や東日本大震災等から一体何を学んだのかと思う。

文言

「人は惟れ邦の本にして、本固ければ邦寧し」
人は、国のもとであり、もとが固ければ国は安定する

上記は、仁明天皇が伊豆における地震の際に発せられた詔です。
経済自由化・機械化・コロナ禍という時代ですが、
人間同士がしっかりと向き合う事を大切にしていきたいと思います。

引用元：（みことのり縮刷版 457・458ページ 第八八七詔）

●参画者

地震研究所が、川などの氾濫を想定しているのを見たが、実際の具体的な対策は考えられていないということだろうか？

●谷昂晃さん

基本的には建造物の耐震性だけが重視されており、実際に震災が起こった後どうするのかというのが考えられていないと感じる。

●参画者

タワーマンションだと停電してしまうと上り下りがまず大変。電源も、水も何もなくなってしまうので、立派な箱だけあっても生きていけない。

●おやじ

大きな地震の体験の方がいらっしゃればお話して頂きたい。災害ボランティアに行った事がある人も居れば。

●参画者

阪神淡路大震災のときは体育館や公民館等に集まっていた。資材を持っていたときは体育館にぎゅうぎゅうに集まっていた記憶がある。

●参画者

阪神淡路大震災の時は津波はなく、建物が倒壊して火事になっているのは見たが、南海トラフで水害が来たときに怖いと感じる。

●谷昂晃さん

浸水してしまうとなかなか元に戻らない。何より市内だと地下鉄が通っており、地下鉄が水浸しになると市民の足が無くなってしまう。

●参画者

このマンションの自治会の話し合いは、最終的にはどうなったのか？

●谷昂晃さん

話を持って来た人は町内会の会長さんのような方で、結局「どないしたらいいねん。」という形だった。

T区は、N区の避難場所として設定されているが、T区には投資物件なども多く、仮に行き場所を失ったN区の人がT区に来た時、果たして受け入れるのかどうかという問題があると思う。

N区は木造建築物が多く、耐震性に課題がありそう。建物が崩れてしまうと、屋根を探してT区に避難して来るが、果たして、そんなにたくさんの人を受け入れることができるのだろうか。

●おやし

震災現場に関しては、東日本大震災の東京はあまり深刻ではなかったもので、何とも言えないが、都会とは異なり、田舎は協力し合うという雰囲気があると思う。

原発の影響で立ち退きを命ぜられた時、空き巣などの犯罪が横行したというニュースもあったが、ほぼ外国人による犯行。警察は見てみぬふり。告訴できる人が居ないので、捕まえても検挙できない。その為、家の横に堂々とトラックをつけて窃盗を行っていたとしても、「捕まえるな」という指示が出たと警察官が言っていた。

当時、被災民同士でトラブルがあったとは特に聞いていない。東京では、人が道路をぞろぞろと歩いていただけでも、食べ物も供給されていたし、独り占めする人も居なかった。N区とそれ以外の区域でも大丈夫なんじゃないかと思った。

明治神宮で避難民を受け入れていたとき、なんで電話はないのか？とか床が硬いとかいう人は居たけれども、「うるせえ」と一括して終わった(笑)。

明治神宮も避難地域に指定されているが、明治神宮としては、「え？」という感じ。いつ誰が指定したの？という状態だった。明治神宮としての避難地としてのプランはない。敷地があるから指定されているだけで、具体的計画はなかった。

ただ、計画が無いのでパニックになるのか、計画がないから逆に良くなるのかはわからない。

●参画者

ハルカスからN区を見た時、違う国のように見えてしまった。それが顕在化するのではないかと思った。

●参画者

阪神淡路大震災のとき、一番最初に炊き出しを行ったのは山口組で、そういう任侠的なものがあるのではないかと思う。

●参画者

大阪のN区の事はあまり知らないが、仕組みはしっかりしているのではないかと思う。生活保護受給者だからと言って、あいりん地区にはすぐ入れないとなる。まずは通常の住居に住まわされる。

N区はボランティアやNPOがあるので普段からそういうサポート体制はしっかりしているのかもしれない。避難場所に指定されるのは、小学校や中学校等の公共の施設になると思うので、間違っても民間のマンションが避難場所になることはないと思う。

N区全体が機能しなくなった時は他の地域に避難するしかないと思うが、それだと、どの地区であっても立場は一緒。もしかしたら、そんな時の避難計画があるのかもしれないが、震災計画を作っても机上の空論にしかない。

実際は、その時はその時でなんとかなるのではないかと思います。また、浮浪者がタワーマンションに入るかというのは極端だと感じる。安宿や、学校が収容先になるのではないかと思います。

●おやじ

そういう所の人の方が、共同体意識やサバイブの意識は強いと思う。そういう人は避難所でしっかり生きていけると思う。それより、資産を持っている人が、そういう人たちに対してどういう反応をするのかということが心配。資産を持っている人はいつの間にかトズラしてどこかに居なくなるような気もする。

●参画者

高層マンション等は便利だと言われているが、電気と水がないと稼働しない。高層マンションは屋上に受水槽があって、地震で漏水しないように緊急遮断弁という機能がついている。しかし、ポンッと強めに叩くとすぐに作動して、水が止まるようになっている。

ほんの些細な事で止まるので、その時、設備の人が居たりするとすぐに復旧するのだろうが居なかったら大変。雨風は防げるが、電気と水が止まるとかなり不便だろうと思う。

●おやじ

もしかしたら立場が逆転するかもしれない。

●参画者

特に、携帯電話が普及しすぎたせいで、固定電話を持っている人が少ない。昔の黒電話だったら電源はいらなかったが、今は電源が無いと使えない。災害があったときには大変だなと感じる。

●参画者

生物兵器を打たれて、免疫が下がって、警察官や消防士が機能しなくなっているのではないだろうか。自分の感じでは、今年から数年間は大切だと思う。一人ひとりがサバイバル意識を持つことが大切ではないかと思う。

カセットボンベ発電機というのが良かったり、水耕栽培が簡単にできるということがわかったので、備蓄が尽きてもなんとか生きていけると思う。

●谷昂晃さん

自治会での避難計画はあるが、N区との交流機会が無くて、うまく行かないのではないかと思います。

●参画者

自分は地域の自治会に所属しているが、昔の担当者が規約を作ってくれていて、災害時のマニュアルが作成されている。しかしマニュアルの更新がされていないので、もう少し話し合う時間が必要ではないかと思う。

今までの役員の人がしっかりされていたので、自治会の倉庫に水が置いてあったりする。しかし、役が嫌だからと言って自治会を抜ける人も多い。なので、そういうところが問題かなと思う。

避難場所は、近くの短大にはなっているが、夜に災害が起こったときに開いているかどうか確認しておかないといけないというところ。災害が起こった時を想定して、自治会で話し合いをするのが良いのではと思う。自分たちのところは基本的にはそうしている。

●おやじ

平時と災害時の共同体の在り方は異なる。生存性の高い共同体は、危ないところを受け入れるというのは必然。好き嫌いではなく、必然の問題としてやらなければならない。

三重県の海辺の人は、津波が来たら全て沈むということを知っており、むすびの里に上がってくるだろうから、その人達に対してどうしようかということは今考えている。

ただ、計画を作ると、思考停止してしまう。また、計画を作った人は知っているが、それ以外の人には知らないという状態になる。「そういうことがあるだろうな」ということを皆が認識していれば、非常事態の時は皆一所懸命なので、なんとかするのはないかと思う。

●参画者

仁明天皇の詔を調べており、その時の詔には以下のような事が記載されていた。「地震が起きたときのその年の税金を免除せよ」、「蔵を開いて賑わいをつくれ」、「壊れた家を修理するのを助けよ」、「亡くなった人を厚く葬れ」、「その課するところは、階を隔てなくせよ」、「遍く有術を施せ」、「敢行の愛を重用せよ」。

天皇さんがあまねく救いなさいということを言われている。今と言っている事は変わらない。

●おやじ

持たない人をどうするのかというより、持っている人がどういう態度を取るかというのがキーになるのではないかと思う。避難する人ではなく、避難者を受け入れる人がどう在るのかということの方が重要なのではと思う。

そのところを天皇陛下がご指示されているということで、それが答えな感じがする。

ちなみに、政治が悪い時に天災が起こる。富士山爆発、大震災、津波。なぜか大天災が重なる。それをかえって浄化作用に使う策を練っていればよいのではないだろうか。

好機に転換できる策を事前に練っておけば良いと思う。政府も自治体も策を練れないと思うので、民間の我々が良い方向に転換させるという策を準備をして、思考しておけば良いと思う。

●参画者

都市部の人と、そうじゃない人の差別的なものはあるのではないかと思う。自分が住んでいるところは、京都だが山科というところで、何かあった時に、下町同士は助け合えるとは思いますが、都市部の人と、普段から助け合えていない時、緊急時になった時に会話ができないのではないかと思う。

下の方から上の方に住んでいる人の事はよく見えるが、上に住んでいる人が下に住んでいる人のことを見えているかということが重要だと思う。

●参画者

そういう状態にならざるを得ない非常事態で、人の別け隔てができるかどうかというのが甚だ疑問に思う。東日本大震災の時に石巻に行ったが、そんなことをしている場合ではないし、会話ができないという状況ではない。

ひっちゃかめっちゃかな状態で、「あなたはこっちの人だから、こちらへ」と選別をするような状態ではないと思う。皆が一所懸命に尽力している状態。

●おやじ

そういう差別する人を、こっそり排除すれば良いのではないだろうか。その人も、そのうち淘汰されていくのではないだろうか。お金を持っていたとしても、マンションの高層階に住んでいて大変だったり、淘汰されていくと思う。

●参画者

そもそも、人を助ける為の問題提起なのか、自分たちの居場所を守りたいだけの問題提起なのかが不明。

●おやじ

社会問題を解決する機会に使えればよいのではないだろうか。格差を是正する最大の好機。

●参画者

商業施設が避難民の受け入れを消極的になるという話があったが、調べると2018年に広島で西日本豪雨があったときに、商業施設のナフコが避難所として施設を開放した。物資もあるし、雨風もしのげるし、有効的だったという事がある。こういう事例があるので、大阪市内の商業施設も大丈夫ではないかと思う。

●参画者

投資価値が下がるのではなく、避難民を助けた方が投資価値が上がるような気がする。逆に、人に優しくしていなければ商業施設としての価値が落ちるのではないだろうか。

●おやじ

グローバリゼーションや、格差や管理社会を是正する絶好の機会とできるのではないかと思う。そんな気がする。

安達悠司さん発表《東京裁判・司法界の問題について》

●安達悠司さん

※詳しくは下記資料参照。

▼資料

■ 安達悠司さん.pdf

憲法を起草する会（大阪）の各自の課題について

R4/1/15

- 1 「専門領域について考える現状の問題点について」
 - ・東京裁判に関する先人の叡智・成果・思想の忘却
 - ・自由や個人の権利を守りつつも、国家に対する大義を中心にもつべきこと
 - ・新型コロナに関する情報の不足
- 2 「新しい憲法に取り入れるべきもの」

→歌（和歌）

●天地をも動かすのは歌である

- ・古今和歌集仮名序 紀貫之

やまとうたは、ひとのこころをたねとして、よろづのことはとぞなれりける。世中にある人、こと、わざ、しげきものなれば、心におもふことを、見るもの、きくものにつけて、いひいだせるなり。花になくうぐひす、水にすむかはづのこゑをきけば、いきとしいけるもの、いづれかうたをよまざりける。ちからをもいれずして、あめつちをうごかし、めに見えぬおに神をもあはれとおもはせ、をとこをむなのなかをもやはらげ、たけきもののふの心をもなぐさむるは、うたなり。

- ・三村晃功「古典和歌の詠み方読本—有賀長伯編著「和歌八重垣」の文学空間」（新典社、平成 26 年 12 月）

和歌は我が国の社会倫理・本来の道理であって、かりそめの心を慰める道具ではない。天下国家の治安と混乱をよく認識して、政治の道の支援をするとともに、自分自身が筋道に合った行動をしているかどうかをはっきりさせて、人間が踏み行わねばならない、父の義・母の慈・兄の友・弟の恭・子の孝の五つの教え、仁・義・礼・智・信の五つの道に適った生き方や、そのほか諸道・諸芸に通じているかどうかを、指していることは言うまでもない。和歌は、神も仏も照覧あそばす道であるゆえに、代々を代表する賢人諸氏たちも、放擲しなかったのだ。したがって、この和歌の道に心を寄せる人は、まず真実の心を持って、道理に適った学び方をしなければならないわけだ（15 頁）。

●歌は君臣の情誼をつなげる

- ・松澤俊二「明治期日本の和歌と〈政治〉」（桃山学院大学社会学論集 第 45 巻 第 2 号）

次の明治天皇御製を紹介

すなほなる大和心をのべよとてかみやひらきし言の葉の道
ちはやふる神のこころにかなふらむわかくに民のつくす誠は
きたひたる剣の光いちじるく世にかがやかせ我が軍人（いくさびと）

「此歌の道ばかりは、言の葉のまことの道の嬉しきは高きいやしきへだてざりけりと、云はれし如く些も上下尊卑の差別無く、上天子より卿大夫、下庶民に至るまで、少しも区別が無い。そこが歌の尊いところである。そこで自分は、これは歌の道を措ては、外に君臣の情誼を繋ぐものは無いと云ふ考へが起つた。」高崎正風述・遠山稲子篇『歌ものがたり』（東京社、1912）

「第一節で紹介した「埋木廼花」を編むに当たり、高崎は上記のように思い至った。つまり「言の葉のまことの道」、〈歌の道〉を以て、〈君臣の情誼〉を繋げるというのだ。」

●和歌と天皇の歴史

- ・古事記・日本書紀に載せられた歌約 200 首 長歌、旋頭歌、短歌、来目歌、歌垣
 - 「大君は神にしませば」「やすみしわが大君」「高光る日の御子」
 - 「この神酒は我が神酒ならずやまとなす大物主のかみし神酒幾久幾久」

- ・天智天皇10年、大津京における饗宴では田舞（たまい）が奏せられる
- ・天武天皇 五節舞を始める（続日本紀）
「大君の遠の朝庭（みかど）とあり通う島門（しまと）を見れば神代し念おゆ」（柿本人麻呂が筑紫に下るときに詠んだ歌）
「みたみ吾生けるしるしあり天地の榮ゆる時にあへらく念へば」（万葉集）
- ・萬葉集 4496首 仁徳天皇～淳仁天皇（天平宝字3年。759年）
泊瀬の朝倉の宮に天の下しろしめしし天皇の代 天皇のよみませる御製歌
籠（こ）もよ み籠持ち 堀串（ふくし）もよ み堀串持ち この丘に 菜摘ます子 家告（の）らせ
名のらせね そらみつ 大和の国は おしなべて 吾こそおれ しきなべて 吾こそいませ
吾こそば 告らめ 家をも名をも
【訳】 籠よ、美しい籠を持ち、へらよ、美しいへらを以て、この丘で若菜を摘んでいる娘よ、家を告げなさい、名前を言いなさい。大和の国はことごとく私が治めています。私こそ告げよう、家をも名をも。
天皇、香具山に登りて望国（くにみ）したまふ時の御製歌（おほみうた）
大和には 群山（むらやま）あれど とりよろふ 天の香具山 登り立ち 国見をすれば
国原（くにはら）は 煙立ち立つ 海原は かまめ立ち立つ うまし国そ あきづ島
大和の国は
【私訳】 大和には多くの山々があるが、特に良い天の香具山に登り立ち、国見をすると、広い平野には炊事の煙が立ち上っている。広い海原にはカモメがたくさん飛び立っている。素晴らしい国ことよ、大和の国は
- ・平安時代 ひらがな、カタカナみられる
- ・古今和歌集20巻 1100首 醍醐天皇 延暦5年（905年）
「わが君は千代にやちよにさざれ石の巖となりて苔のむすまで」 → 国家の歌詞に
- ・御撰和歌集 村上天皇天暦5年（951年） 拾遺和歌集 一条天皇 後拾遺和歌集 白河天皇 応徳3年（1086年） 金葉和歌集 崇徳天皇大治2年（1127） 詞華和歌集 近衛天皇 仁平 十千載和歌集、新古今和歌集（八代集）
- ・貞観・寛平 六歌仙（僧正遍昭、在原業平、小野小町、文屋康秀、喜撰法師、大友黒主）
- ・紀貫之、藤原公任「新撰髓脳」、曾禰好忠、藤原俊成、西行法師
「すへのよの末の末までわが国はよろづのくににすぐれたる国」（京都正伝寺の東巖慧安の石清水八幡宮敬白文）
「西の国よせくるなみもこころせよ神のまもれるやまと島根ぞ」（春日若宮神主中臣祐春）
「世のために身をば惜まぬ心とも荒ぶる神は照し覧らん」（亀山上皇）
「明らけき神の国なるをす国と頼む心はくもらぬものの」（亀山上皇）
- ・新古今和歌集 藤原定家
- ・新葉和歌集20巻 長慶天皇弘和元年（1381年） 1420余首
「ちはやぶる神代より国を伝うるしるしとなれる三種の宝をも承け伝えまし」
「君のため世のため何か惜しからむ捨ててかひある命なりせば」（宗良親王が武蔵国小手指ヶ原の戦いで詠んだ歌）
「四つの海浪をもさまるしるしとて三つの宝を身にぞ伝うる」（後村上天皇）
- ・新続古今和歌集 後花園天皇 永享10年（1438年）
- ・連歌の流行 菟玖波集 二条良基 新菟玖波集 飯尾宗祇 俳諧の連歌 山崎宗鑑
- ・能楽・謡曲・狂言
「うれへなき民の心と聞くからにいまぞ我が身のたのしみとせむ」（後土御門天皇）
「をさめしるわが世いかにと波風の八十島かけてゆく心かな」（後柏原天皇）
「なにの道もまさきのかつら末ついにたえずつたへよ家々の風」（正親町天皇）
「ためしなやひとの國にもわが國の神のさづけて絶えぬ日嗣は」（後陽成天皇）
「仰ぐぞよ神の御代より世々たえずしるせる國の史のかしこさ」（靈元天皇）

- 「へだてなきわが日の本の光をばあだし國まであふがざらめや」(靈元天皇)
「天照らす神のめぐみに幾代々も我があしはらの國はうごかじ」(仁孝天皇)
「まもるてふ五つの常の道しあれば六十あまりの國もうごかず」(後水尾天皇)
- 寛永3年9月(1626年) 後水尾天皇が二条城に行幸 題「竹契遐年(ちくけいかねん)」
後水尾天皇の歌 「もろこしの鳥も住むべく 吳竹の すぐなる世こそ 限り知られぬ」
【意味】鳳凰も現れるような真直ぐで正しい道が行われている今の世は、尽きることなく素晴らしい。竹が長寿を保証することにあやかり、今の世の永遠性を寿ぐ歌。
 - 前將軍 徳川秀忠の歌 「吳竹の万代(よろづよ) までと契る哉(かな) 仰ぐに飽かぬ君が行幸(みゆき)を」
【意味】いつまでも続くめでたい世をを誓うことだ、いくら仰ぎ見ても飽き足りることはない、そのくらい帝の行幸はすばらしいものである。天皇の權威の永遠性を仰ぎ、かつて征夷大將軍であったものとして天皇をお守りする気持ちを表す。
 - 「をさまれる六十あまりの國の風たのしむ聲やよみにみつらし」(靈元天皇)
「身の上はなにか思はむ朝な朝な兩やすかれといのるところに」(桜町天皇)
「神代より世々にかはらで君と臣の道すなほなる國はわがくに」(桃園天皇)
「たみ草に露のなさをかけよかし世をもまもりの國のつかさは」(光格天皇)
 - 俳諧 松尾芭蕉 与謝蕪村 小林一茶
 - 狂歌・川柳 太田南畝(蜀山人)、石川雅望(宿屋飯盛)、柄井川柳
「身はたとひ武蔵の野邊に朽ぬとも留置まし大和魂」(吉田松陰)
「朝ゆふに民安かれとおもう身のころにかかる異くにのふね」(孝明天皇)
 - 「歌聖」と呼ばれた明治天皇 生涯10万首近くの歌を詠む。
明治天皇21年 御歌所設置 所長高崎正風
「あさみどり 澄みわたりたる 大空の 広きをおのが 心ともがな」(明治37年)
「よもの海 みなはらからと 思ふ世に など波風の たちさわぐらむ」(明治38年)
「とこしへに民やすかれといのるなるわがよをままれ伊勢のおほかみ」
「照るにつけくもるにつけて思ふかなわが民草のうへはいかこと」
「神風の伊勢の宮居の事をまづ今年も物の始にぞきく」
 - 落合直文、与謝野鉄幹、正岡子規、高浜虚子、川東碧梧桐 島崎藤村、土肥晩翠、佐々木信綱
 - 昭和天皇 昭和21年1月 歌会始に詠んだ歌
「ふりつもる み雪にたへて いろかへぬ 松ぞををしき 人もかくあれ」
 - 上皇陛下 平成28年1月 歌会始に詠んだ歌(ペリリュー島戦没者の碑を訪れて)
「戦ひに あまたの人の 失せしとふ 島緑にて 海に横たふ」

●日本国憲法第一条の歌(試作)

(「天皇は日本国の象徴であり、日本国民統合の象徴であって、この地位は、主権の存する日本国民の総意に基く」を和歌に)

てんのうは あめつちわけて このくにを はじめたまひし あまかみの あまつひつぎを
うけつぎて よよしとしめす かんやまと いわれはれひこの みことより ひのもとすべる
すべらきの たみをおさめて たみゆたか やすらけくとぞ かみまつり くにをやはして
くにまとめ たみのころも ひとつにて おもひかたどる しるしなりけり

(意味)

天皇は、天地が開け国を始めてくださった天つ神の天津日嗣を受け継いで代々治められ、神武天皇よりすべらぎ(天皇)として日本の国を統治される方であり、民を治めて民が豊かで安らかであるよう祈って神を祀り、国を平和にして国をまとめ、民の心も一つにして民の思いを形どる象徴としていらっしやいます。

以上

●参画者

昔、安達さんは周りに居る弁護士さんと同じ考えだったと言われていたが、どうやって考え方が変わって来たのでしょうか？

●安達悠司さん

大学に入るまでは勉強が一番だった。学業優秀で、習ったことをそのまま覚えて、疑うということをしなかった。

しかし、京都大学に入って、「政治家になりたい」とか、「官僚になりたい」など、そういう人が居て、政策討論をする為にイベントを開催するようなサークルに入った。そこで常識を疑うということを感じた。

一方的な政策などの意見の裏側を読み取り、如何に論破するか等をしながらそういうことを知った。また、そこから常識に反する本を読み始めるようになり、読みながら弁護士もやりはじめて、また別の本を読んで、通貨の仕組みの違和感も覚えた。

タブーな話で、ユダヤ人が日本の戦前の歴史に深く関わっているということに気づいた。ユダヤ人からお金を借りたりなど、いろいろと勉強すると、大東亜戦争は間違えていなかったのではないかと気づいた。

だんだんと知識を積み重ねていき、5年前にそれが確信に変わった。どうも歴史に騙されていたんだなということを知った。弁護士会自身が、東京裁判のことを資料のように言っている(資料 >>> ■ 安達悠司さん.pdf)。

●参画者

日弁連に所属する方々のタイプにより、意見が異なるということでしょうか？代表になっている人が特定のイデオロギーを持って突っ走って、正義だと主張して、世間的にはどうしようもないと見られているということ？

●安達悠司さん

世間的にはどうしようも無いとは見られていないと思う。マスコミは弁護士会を受け止めているように思う。立憲民主党が言うような政策をマスコミはもてはやするような気がしている。

日本をもっとグローバル化したり、ジェンダーを極端に平等にしたり、働くことは悪いことだとか、政府が全て悪いんだとか、そういう政策。

個人の自由だけに偏っているように思う。普遍的な自由というのは大事だとは思いますが、国を護る方が大事という事もあるのではないかと思います。そういう国体や国防の観点が抜けているように思う。

●参画者

共産党や立憲民主党の謳う自由というのは、実際に実現させていくと、特定の階級が生まれていくというものだと思う。

●安達悠司さん

今回のコロナ騒動では、ワクチン差別もしているし、マスクも半強制したり、その自由というのは全く役に立たない。マスクをしたい人はして、したくない人はしなくて良いのではないかなと思う。自由に反して、差別をしていると感じる。

●参画者

健康的でも文化的でもないのに憲法違反にならないのか？

●安達悠司さん

実際は憲法違反だと思う。憲法違反だと憲法9条だけのように思われるが、そんなことはなくて、ワクチンで健康被害があれば、「薬害」と言って弁護士会が意見書を出したりもする。

今回のコロナワクチンでも、神奈川と兵庫と埼玉の弁護士会はちゃんと意見書を出している。ワクチンパスポートは違憲だということで意見書を出している。他の団体よりは捨てたものではない。が、今までの盛り上がりは無い。

●おやじ

確信的なのか、空気を読んでなのか、どちらなのか。

●安達悠司さん

空気を読んでいると思う。それをやってしまうと自己矛盾に陥ってしまって、一つの謀略を認めてしまうと、全てが謀略になってしまい、辻褄が合わないようになるので、自己崩壊しないように繕っているのではないかなと感じる。だからこそ、マスコミが言うことが正しいという事にしている。

裁判官も、マスコミが言うことが社会通念であり常識だという先入観がある。法学部では、社会の常識というのが法律にとって一番大切だと習う。じゃあ社会の一般常識というのは何かと言うとわかりにくいので、とりあえず「新聞の言っていることが正しい」としている。

その新聞社が謀略で歴史認識を歪めているので、根が深い問題。

●参画者

昔の安達さんは何でも純粋に信じていたと思いますが、その時の自分に声をかけるとしたらどう声をかけるのか？

●安達悠司さん

むすびの里に連れて来られたりすると良いのではないかなと思う。

これは自慢だが、高校3年生の時、高校生クイズ大会に出て、全国2位までいった。何が印象的だったかというと、「古き良き日本の旅をしよう」という企画で、東京から新潟まで行って、長野県に寄って帰って来るという旅だった。

日本の伝統文化に触れて、とても貴重な体験ができた。魚沼郡の田舎の村落で、ご飯を御馳走になったり、お祭りに参加させてもらったりした。その体験が、後々に自分の目を覚まさせてくれた。あの企画をもう一回やって貰いたい。

●参画者

知らないのを教えて欲しいが、弁護士という仕事はいつできたのか？

●安達悠司さん

明治時代にできた。最初は、代理人と言われていて、弁護士の制度の原型ができた。当時は検察官が弁護士を監督するという制度だったが、戦後、弁護士の監督機関がなくなり、日弁連というのができた。

弁護士の仕事自体は明治にはあった。今の制度ができたのは戦後。日弁連の最初の指導者達は正しい価値観を持っていたのではないかと思う。

●おやじ

司法界全体で、最高裁判所から検事など、日本観に対して、どういう認識なのか。

●安達悠司さん

正直、検事と裁判官に関しては何を考えているかわからない。どちらかと言うと、新聞の言う事を価値観としている人が多い。

検事は、国家の正義を代弁しているのだという意識は感じられる。裁判官は社会通念を通じて正義を代弁するという考え方。ただし、社会通念というものもそれぞれ考え方が異なる。

●おやじ

自分は、政治と行政の人は見ているが、司法の世界の人との交流が少ない。自分が知っている弁護士の人は、弁護士全体の中で浮いているという人が多い。だから司法界全体の空気感がわからなかった。

●安達悠司さん

変わり者が多く、個性が強い。意見書を出すとかになるとリベラル色が強くなる。

●おやじ

安達さんが提案されている和歌に関して、検察と裁判官に見せたらどんな反応になりそうなのか？

●安達悠司さん

意味がわからないと思う。何言ってんの？という感じ。そもそも神武天皇は存在していないと思っている人が多い。ただ、個別に興味を持っている人は居る。

●おやじ

東京の憲法を起草する会で、憲法草案や、皇室典範草案を作って公開討論をしようとして、司法専門家を呼んだ時、「は？」となって、「そういうのはわからない」と、意見もアイデアも言わないという態度だった。

●安達悠司さん

法学部で詔を教えてないからだと思う。法学部で学んだ事しか知らない人には理解できない。歴史が好きで勉強している人はわかるだろうが。

弁護士もそれぞれ趣味が広く、登山だったりマラソンだったり、個人的に極めている人はめちゃめちゃ極めているので、興味ある人に乗っかれば「面白い」というようになると思う。

●おやじ

田中角栄の時、日本の司法に基づいておらず、アメリカの司法で、彼の政治生命に影響したということがあったり、日本の有力企業をアメリカの司法で訴えたと、アメリカに連れて行かれて禁固刑になるなどということを知る。自分達からすると完全に治外法権だと思うが、なんでアメリカの法的強要を日本国内で受けるのか。

日本の司法権を持っている立場として、そういう事に対して意見を言うなどということは無いのか？

●安達悠司さん

田中角栄は日本の裁判所で裁かれ、そこに政治資金が入ったということだけの事だと思う。アメリカの裁判だと、向こうのルールに則ってやらないといけない。それが違法ということであれば、日本の裁判所が意見を言うこともできると思う。

田中角栄の時は、司法の問題というよりは、国防とか軍事の問題のように思う。トヨタがアメリカにやられたという話も、経済戦争だったりするのではないかと思う。ルールがおかしければ変更するが、そういう問題は、弁護士は興味が無いのかもしれない。

●おやじ

時間の兼ね合いで、和歌の話に入れなかったが、「採用」の印鑑を押したくなる程良いもの。

万葉集では、天皇さんの御製から、詠み人知らずに至るまで、立場などを差別せずに編纂されているというのが素晴らしい。諸外国では基本的には無い。

三島由紀夫も、文化防衛論で、和歌を通じて思いを交流できるというのが日本の文化の特徴だということを言っていた。そういう意味では垣根をとっばらって、想いを交流できる極めて貴重なツールだということは間違い無いと思うので、憲法に和歌を使うというのは素晴らしいと思う。